



国際ロータリー第 2790 地区第 9 分区

—— 2010 ~ 2011 年度 ——

ロータリー情報研究会 報告書

テーマ『私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか』



「地域を育み、大陸をつなぐ」
2010 ~ 2011 年度 R I のテーマ

成田ロータリークラブ 八街ロータリークラブ
富里ロータリークラブ 白井ロータリークラブ
成田コスモポリタンロータリークラブ 印西ロータリークラブ

主	催	国際ロータリー第 2790 地区第 9 分区 ガバナー補佐 石井 勝雄
開	催	日 2010 年 11 月 18 日 (木) 点鐘 14:00
会	場	成田ビューホテル
ホストクラブ		印西ロータリークラブ

2010～11年度

第9分区ロータリー情報研究会

開催日：11月18日（木）

場 所：成田ビューホテル

プ ロ グ ラ ム

		司会進行	ガバナー補佐幹事	齊藤 雅
14：00	開会・点鐘		ガバナー補佐	石井 勝雄
	国歌並びにロータリーソング「奉仕の理想」			
14：05	ガバナー補佐開催趣旨挨拶		ガバナー補佐	石井 勝雄
14：10	ホストクラブ会長挨拶		印西RC	浅海 輝行
14：15	地区職業奉仕委員会			
	クラブ研修委員会委員長挨拶		千葉西RC	海寶 勘一
	地区職業奉仕研修委員会委員 卓話			
	「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」	地区委員		川名 光俊
14：40	休 憩			
14：45	バズセッション（各テーブルごとに討議）			
	「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」			
15：45	意見発表（テーブルごとに）			
16：15	地区職業奉仕委員長 総評挨拶		パストガバナー	土屋 亮平
16：20	閉会 点鐘		ガバナー補佐	石井 勝雄

懇 親 会

		司会進行	印西RC幹事	三國 恭輔
16：30	開会 挨拶		印西RC会長	浅海 輝行
	乾杯		印西RC会長エレクト	出山 国雄
	懇親			
	ロータリーソング「手に手つないで」			
17：30	閉会		ガバナー補佐幹事	齊藤 雅

【石井勝雄 第9分区ガバナー補佐 ご挨拶】

本日は大変お忙しいところ、第9分区情報研究会にご出席を賜りありがとうございます。又、地区職業奉仕委員長でパストガバナーの土屋亮平様他5名様の研修委員の方々をアドバイザーとしてお越し頂き、誠にありがとうございます。

今ロータリーは危機に直面して居ります。その原因は会員の減少と会員の意識の低下にあると言われて居ります。

今年度織田ガバナーはロータリーの原点は職業奉仕の理念、哲学にあり、今こそ原点に立ち返り議論や検討を重ね、新しいクラブのスタイルを構築しようと力説されました。そして今年度初めて職業奉仕委員会に研修委員会を設置して皆で議論しようとなった訳でございます。

本日の研修テーマであります「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」であります。極当然で議論の余地がないように思っていた人が多いのではないかとと思いますが、これこそロータリーの原点であります。

アドバイザーのご指導を頂きながら、今日一日が有意義な一日と成ります様ご期待申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

【浅海輝行 印西ロータリークラブ会長 ご挨拶】

皆様今日は。私は今年度第9分区ガバナー補佐を輩出して居ります印西ロータリークラブ会長浅海と申します。ホストクラブとして一言ご挨拶を申し上げます。

本日の情報研究会には分区内の約半数百十数名のご参加を頂いております。又、お客様として地区から地区職業奉仕委員長土屋様を始め、クラブ研修委員長海寶様・職業奉仕研修委員長富様、研修委員川名様、同じく堀内様、山下様のご出席を頂いております。土屋パストガバナーには総評のご挨拶を又海寶様にはこの後すぐにご挨拶を頂きまして、卓話には川名様をお願いしております。

さて、本日のバズセッションは皆様が今お掛けになっているテーブル毎の討議となっております。討議後は各テーブル毎リーダーからの発表をお願い致します。テーマは「私達は何故週に一度ロータリーに集うのか」となっております。クラブの例会が習慣化されている昨今、もう一度皆様、例会の意義を見直してみたいと思いませんか？

本日の情報研究会が今後の皆様にとって、有意義になります様宜しくお願い致します。

【海寶勘一 地区職業奉仕委員会クラブ研修委員会委員長 ご挨拶】

第9分区6クラブの皆さまこんにちは。

只今ご紹介を賜りました、地区職業奉仕委員会に属し、クラブ研修委員会の委員長であります、千葉西ロータリー・クラブ会員の海寶勘一です。

只今は9分区：石川勝雄ガバナー補佐さんと浅海輝行：印西RC会長さんのご挨拶にもありましたが、今年度は織田吉郎ガバナーからスタイルを磨こうという地区テーマを頂き、そのためには職業人としてのロータリアンの基本である職業奉仕をよく理解をして、一層ロータリーライフを有意義にさせていこうと、委員会活動がスタートをされております。

再度の御説明になりますが、各14分区でロータリー情報研究会を開催して頂き、分区の皆さまのグループ討議において、「私達はなぜ週一度ロータリーに集うのか」のテーマをもって、自由闊達なグループ討議をして頂きたいと思っております。

土屋亮平：地区職業奉仕委員長さんが、いつも口癖に申される言葉は、ロータリーの職業奉仕をもっと簡易に受け止めて、ご自身が日常携わっている事業経営の理念や姿勢そのものを、例会で集う仲間とともに自己研鑽をすることです、と仰っております。

毎週の例会では、形式や形骸化されたことだけではなく、もっと活発な会員同士の交流をもって、各クラブ内で積極的な研鑽や修練や感化をしあうことが、できるようにしたいものです。

これから川名光俊：地区委員の卓話を参考にされて、是非とも意義のあるグループ討議をして頂ければ幸甚ですし、先ずはご自身の事業繁栄に結びつけて一層の職業奉仕の心を磨いてほしいものです。

最後になりましたが改めまして、第9分区のロータリー情報研究会を設営して頂きました、石井勝雄ガバナー補佐さんと、印西ロータリー・クラブ：浅海輝行会長さん始め会員の皆さまには多大なご支援を賜りましたことに、心からの感謝と御礼を申し上げます。

ご理解とご尽力をくださり誠にありがとうございました。

2010-11-18

国際ロータリー第2790地区

地区クラブ研修委員会委員長 海寶勘一(千葉西RC)

【川名光俊 地区職業奉仕委員会クラブ研修委員会委員】

◇卓 話

皆さん、こんにちは。只今、ご紹介を頂きました地区職業奉仕委員会のクラブ研修委員会委員を仰せつかっております川名でございます。所属クラブは、館山ロータリークラブであり、職業分類は清酒卸しであります。第5分区内で酒類飲料等の卸販売をさせていただいております。

本日は、第9分区石井ガバナー補佐並びに印西ロータリークラブ浅海会長始め、会員の方々には「ロータリー情報研究会」を設定していただき、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

ロータリー精神を簡単に表現するなら

「一人一人が他人の立場に立って物を考え、他人のお役に立つような行動をしようということ」

相手の立場に立って物事を考える思いやりの心が大事です。

「情けは人の為ならず」

これがロータリー精神であり、ロータリーの奉仕とは、そこから出てくる行為であります。そして、ロータリークラブという組織はそういう精神を鼓吹し、そういう奉仕の道に熱意を燃やす人を育てようとする学校であると言われていています。

さて、11月6、7日開催されました第2790地区大会は大成功であったと私は思っております。RI会長代理田中毅氏の講演「ロータリーの危機」については、織田ガバナーも心配をなされていた演題であり、今後のロータリーの方向を示していただいた様な気が致しました。

2日目の基調講演は、織田ガバナーが心酔しておられ、1年前から講演をお願いし、受け入れて下さった2002～2003年度国際ロータリー会長をお務めになられたビチャイ・ラタクル氏の広い心での人間愛と、他の人に対する熱い思いやりで奉仕の輪、感謝が広がっていくという「奉仕の理想」という題材でのお話は多くの人に感動を与え、涙をさそうすばらしい講演であったと思います。その会場でお会いした習志野RC会員で財団寄付を30回近くもなさっている方と話をさせて頂きました。2～3年前から、ロータリーに疑問を持ち始めて、来年で退会を考えていたのだが、今日の講演を聞いて新たな気持ちでロータリーに又参加する事にしただけで涙を流されていました。

その様に地区全体に余韻が残っている中で卓話させて頂くのは大変な事なのですが、役目としてこの場に立たさせて頂きます。宜しくお願い致します。

今年度、織田ガバナーからは、土屋亮平パストガバナーが主管する職業奉仕委員会に所属する、私達地区クラブ研修委員に対して、各分区ごとに行われる「ロータリー情報研究会」で、テーマ「私達はなぜ週に一度ロータリーに集うのか」について、分区の皆様にはこの後討議をお願いするわけではありますが、そのお手伝いをするようにと使命を頂きました。昨年のロータリー情報研究会は、私もお手伝いさせて頂きましたが、地区広報・情報委員会が主催した「決議23・24からロータリーを知ろう」というテーマで、第279

0地区を4つのグループに分けて実施させて頂きましたが、織田ガバナーは、「クラブの強化はロータリーの綱領を推進すること、つまり、職業倫理高揚実現のため」、クラブ会員は、綱領を遵守する義務を負っており、まず足元をしっかりと見つめ、原則を確認した上で、活発な活動を展開して行くことをお願いしたいと言われております。また、日本のロータリーの危機ということにも大変関心、心配をなさっており、多くの会員の方々に原点・原則に還って、十分なお話し合い・討議をして頂きたいということで、14ヶ所での情報研究会の実施になったわけであります。宜しくご理解の程お願いいたします。

本日、卓話をさせていただきますが、私の役割は職業奉仕委員会で学び得た事、一般的に難しいと言われる職業奉仕、と例会出席の関わり合いをできるだけ解り易く皆様にお伝えし、その後のグループ討議の為のなんらかの手助けになればと思っておりますし、皆様と供に勉強をさせて頂き、素晴らしい情報研究会になるよう願っております。

これからは、まったくの主観であり、地区委員を仰せつかっても、浅学非才の私でありますので、間違った見解等々沢山あると思っておりますが、ご理解の程宜しくお願い致します。

先程、冒頭でふれさせて頂きましたが、織田ガバナーは、ロータリーの綱領を非常に大事にそして正しく理解して頂きたい、そして4大奉仕の中心として存在するのは職業奉仕であり、ロータリーは職業倫理を高揚することを目的としてあげた唯一の団体で、ここを失うとロータリーではなくなるということを肝に銘じなければならないと言われております。このお考えのもと、従来地区クラブ奉仕で行っていた情報研究会を、職業奉仕が主管するというわけであります。

国際ロータリー定款第4条、綱領「ロータリーの綱領は、有益なる事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、と書かれております。簡単にいうと、「ロータリーの目的は、社会的に価値ある企業活動の基本となるよう、奉仕理念を導入し、育み・・・」となり、綱領の主文は、職業奉仕について述べている事になります。これがロータリーの根幹は、職業奉仕にあるという所似であります。特に、第2項において、職業奉仕が強く表現されております。

綱領の第2項「事業および専門職務の道德水準を高めること、あらゆる有用な業務を尊重させるべきであるという認識を深める事。そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること」とあります。ちょっと理解しにくいのですが、要するに、自分の仕事に誇りを持ち、自信を持ち、且つ責任を持ち相手の立場（すなわち買い手の立場になって）自分の仕事に励み、利益を上げ、精神的なゆとりを持った中で他の多くの人達に思いやり、愛情を持ち、道德的向上に努め、その心を持って行動する事に依って当然、社会を潤すことになるのです。これが奉仕であり、職業奉仕の神髄であると言われてます。

奉仕であり、職業奉仕の実践を円滑、かつ積極的に進めるには、おおむね実業家は、自己教育の場に恵まれていないのが現実であります。しかしロータリーには学校教育と違い、今、現在進行している地域経済社会の職業に対するトッププロ、専門職業のプロ集団であるわけであり、1週間に一度の例会に出席し、多くの人達と語り、情報交換をし、知識

を身につけ自己研鑽（他をまねする）事に依って社会に貢献できるという事になると思います。

ロータリーの綱領から推察しても、ロータリークラブは職業倫理の向上を図る事を目的とした団体であり、同士の集まりであり、会員は、一業種一会員を原則として、週一回の例会を持ち、会員相互の交流を通して自己啓発を図り、道德水準を高め、その心を持って自らの職業を通して社会に貢献する事を目指している倫理運動です（すなわち職業倫理の向上を図るということになります）。

従って、ロータリーは、人材練成、人づくりの場であり、「ロータリーは、人生道場である」と言われる所以であります。そしてまたロータリーは、自己研修の場であると認識し、例会出席をしたら良いのではないのでしょうか。

私が入会した21年前、地区ガバナーであった島様にお話を聞かせて頂きました。周りの人は知らないところで色々見えていますよ、仕事に対しロータリーに対し頑張り、前に向かって人間には人は寄ってきますし、声を掛けてもらえますよ、と言われました。パストガバナー自身、過去に実感なされたという事でした。その後例会とは一週間に一度多くの会員の方々とお会いし、さまざまな情報を頂く事によって一週間の自分の働きについての反省、チェックの日とし、又気持ちのリフレッシュをしての今週のスタートの日と心がけているとお聞きしました。そのような考え方を持っていくと、例会が待ち遠しく、楽しくなっていくものですよと言われました。（ロータリーは人間形成の場、人生の道場）

ロータリークラブと言うのは、例会出席と親睦を考えると、（食事を共にすることも必要であり大事な事です。ロータリーの親睦で忘れてならないのはお互いに良く知り合うこと、そしてお互いに尊敬し合えるようになる事であり、お互いに「相手の身になって考える」という修練を積むところであると認識を持つことでもあります）つまり知り合いを広め相互理解をもとめるということの基本として、自分の職業を充実し、実践し、情報と言う意見交換、親交を深め、職業倫理の向上を図り奉仕の人を育てる場所でもあります。だとすると、ロータリーの三大義務としている出席無くして親睦も無ければ、互いの情報と言う意見交換と言う事も無くなってしまわないのでしょうか。そして当然奉仕の実践もお粗末になるという結果が見えてきます。だから出席は、目的ではなく目的に達する最重要な手段ということになるのです。

しかるに、出席を語るとなると前提としての例会について考えなければいけないと思います。そこで例会の目的は、ということになります。

例会の目的は

会員同士、切磋琢磨して、自己研鑽に励み、己の足りないところを仲間から学び、異業種の優れた指導者、向上心の強い人との出会いを深め、自己の心の改善を計ることにあり、その結果、奉仕の心、即ち思いやりの心、愛が育まれる場所でなければならないということになります。

（故に、会長・幹事は、例会に出席する大きなメリットを創出する事の責任がある）常にS.A.A.、プログラム委員会、親睦委員会との連絡、決定の確認等々を行う必要があると思います。（積極的な会員卓話を行うことが必要だと思います）

また出席会員の心得として

例会は、会員一人一人の積極的な参加によって作られるものであり、一人ひとりの出席の向上が、例会をより楽しく、そして活性化し、ロータリーを変え貴方と貴方が関わる家庭・職場・社会生活をよりよい方向に変えるという認識を持ち、心の中に常に4つのテストを入れておく事が必要ではないかと思えます。

「人は人の中でしか育たない」

「何気ない会話の中にヒントがある」

(ダイオード、青い光)

過日、10月4日、当時レインボーヒルズカントリーで開催された地区大会記念ゴルフで最高齢者として特別表彰を頂きました館山クラブには皆様もよくご存知だと思いますが、飯田会員(92歳)は、戦後4年半、シベリアに抑留されていたということでもあります。例会において、年に一度は卓話を頂いておるのですが、戦争はむごい、2度としてはならない、人生は大事に生きて、強く生きて下さいと話されます。弾丸がヒュン、ヒュンと頭上を過ぎていく時は怖いことはない。自分の周囲にブスブスと突き刺すような音が聞こえた時はだめかと思った事も何度かあったとっておりました。その後抑留時代、帰国したら、戦友、国の為に必死に働くことを心に誓ったと言っておられました。帰国後、周囲に押され、全国で2番目に若い村長になられ、その実績で経営がひっ迫しておりました信用金庫理事長をお受けになり、従業員と供に夜毎、お客様の心をつかみ商売繁盛させるかを考え、3年間で約10倍の預金残高を上げて全国1位の伸び率を上げたということでした。

このような人生訓、職業に対する一途な思いなど私にとっては、一言一言が血、肉となっていくお話を聞けるのも、週に1回の例会があるからだと思っております。飯田会員は、週1回の例会は、異業種の集まり、利害の無い会員同士の中での意見のやりとり、昨日あった出来事などを語り聞く事に依って、1年間を通して出席してみるとそれだけで人間的に成長していくのだということをおっしゃっていました。現在は耳が少し遠くなり、例会の卓話や会員相互の語り合いも聴き取りにくくはなっていますが、例会の場の温かさと会員の動きをみているだけで楽しむことが出来て長生きの秘訣ですとっておられました。

といくつかお話をさせて頂きましたが、ロータリーとしての根幹とされている職業倫理の向上、職業奉仕の実践を行う事の原動力は、やはり原点である週に1回の例会に出席し先輩又新しい会員の方々の話を聞き、自分には足りない行動パターンをまねするために(自己研鑽)親睦を深め、委員会活動に積極的に参加する事ではないでしょうか。

終わりにあたり、特に今回の情報研究会はこの後のグループ討議テーマ「私達はなぜ週に一度集うのか」の中で職業奉仕と例会出席の関わり合いを皆様で話し合ってください。そしてそこで、得られた知識をクラブに持ち帰って頂きクラブ内で十分なディスカッションをして頂き、そして今後のクラブ活動活性化に向けて同じような、語り合う機会を、区内でも作って頂く事が今回の情報研究会開催の大きな目的であります。又は、織田ガバナーが地区テーマの内容の中で、ロータリーの今後について大きな心配を

抱いているところがあると思います。

職業奉仕理念の衰退、歯止めの効かない会員減少、例会の形骸化、それに依るクラブ運営の迫力不足、地元地域へ積極的奉仕活動の減少等々、これらの事も今後のクラブの話し合いの中に組み入れて頂けたらと思っ
てなりません。この情報研究会が実りある充実した会になる事を願って私のつたない話を終わらせて頂きます。有難うございました。

*** アンケート結果 ***

アンケート1 「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」

- ・ 会員の構成が特定の職業に偏っていないため、ともすると日頃自らの会社あるいは業界に埋没しがちに成り視野が狭くなる自分を見つめなおせる。(一業種五会員制の効用の享受)
- ・ 人格形成に資する。
- ・ 異業種の会員との会話を楽しむことで相互理解を深める。
- ・ 親睦です。人格の育成。
- ・ 社会・地域情報を受け止める為。
- ・ 自己研鑽のため。
- ・ 「出席なくしてロータリーなし」毎週の例会で会員と語り、情報交換をすることにより、ロータリーや職業奉仕について考え、人格の成長を目指すため。ロータリーとは親睦と奉仕を通じて自分を磨くことと考える。
- ・ RI 定款第 5 条によって、会員として認められた者は、クラブ定款の出席規定によって出席することがあたりまえであり、それに異を唱える者は会員にあらず。
- ・ 週 1 回の例会は、ロータリー活動の基礎であり、出発点。職業奉仕等の活動を企画、実施するにも、例会で週一度顔を合わせる「仲間」という連帯感が活動の基礎となる。
- ・ 当ロータリークラブ定款第 9 条出席第 1 節一般規定：各会員は本クラブの例会に出席すべきものとする、と定めています。例会はロータリー活動の基盤であり、一緒に同じメニューの食事を取り活動方針を確定し、卓話等により教養を高め、みんなのためになる事を奉仕するために週一度集い親睦を深めています。
- ・ ロータリー歯車の 24 歯が錆付いて回転が鈍っていないか確認し合う。
- ・ よく知っている人だから、とか、いつでもお会いできる間であってもいざ会うためには何らかのアクションをとる必要があります。日時、時間が決まっている事によって、それは解消され、しかも特別に何もしなくても例会場でお会いできる楽しみがあります。そして人生の大先輩ともお話しできる機会も生じ、仕事の中とは違う空気に触れる時間が素晴らしいと思います。
- ・ ロータリーのルールだから。
- ・ 会員としての権利と義務がまずありき。そして自己研鑽をし、親睦を深めると信じます。
- ・ 自己研鑽の場。自分から進んで学ぶ事が大事。例会に出席することにより何か新しいことに出逢えるか、理由はわからないけれど週一回例会に出ることが身についている。入会してから日が浅いので仲間作りに励んでいる。人と人との繋がりを求める。
- ・ ロータリアンには 3 つの義務がある。その中の一つが例会に出席することである。ロータリアンとして例会に出席して自らロータリーについて学ぶ事が大切である。
- ・ ロータリーのルールだから。何か新しい発見があるかと期待して出席するが…しかし！
- ・ 私個人としては昔学校に通ったような気持ちで例会に出席することを自分に義務付けています。ロータリーに属する者として、例会に出席し、例会を盛り上げることが一番大事なことと考えています。
- ・ クラブ定款に毎週一回定期の会合を開くことが定められている。会員相互の交流を密に

し、親睦を通じ奉仕活動に生かしていく。

- ・同じメンバーやお客様、他クラブメイクアップ等で自分以外の物事の考え方、対応の仕方を数多く聞く事が出来る場だと思っています。
- ・ロータリーの出席(例会)は人生の道場と言われています。私等もロータリー歴が長いので出席してロータリーの仲間と出会うことが楽しみになっています。
- ・情報交換、義務。
- ・会員同士週一度顔をあわせる事で親密になると思います。ロータリーの例会が生活のリズムとなり、やはり月2回より毎週の例会が良いと思われる。
- ・先輩の友人たちに会うため。自己研鑽と修練の場としてとらえている。
- ・知らない者同士が理解を深めるには年1回より月1回、月1回より週に1回の方が分かり合えると思う。またお互いに理解するには顔をあわせて言葉を交わし合わせなければ難しいと思います。やはり人間ですからすれ違うこともあると思います。それでも知らないよりは知り合っていた方が僕は良いと思います。
- ・会員の友情を深める為、それによって自分の仕事につながれば最高。
- ・例会出席はロータリアンの責務であるが為。さらに、会員相互の情報を共有できることが楽しみです。現在私がプログラム委員長を務めているので、例会の進行ができない状態になると困るために義務をはたしています。
- ・ロータリー発展のための意見交換の場であり、すべてのロータリアンが共通の意思を持ってクラブ運営をする機会であり、自分の意見を発表する場であり、食事をしながら語り合える場であり、ロータリーの基本だから必要であると思います。週一度の回数については非常に良いと思います。
- ・ロータリアンとして最大の義務であるから。すべてのクラブがそうとは言えないが。本来なら(建前を言うなら、実際は程遠い)、自己研鑽の場としての例会ですからそれを求めて。会員相互の友情の広場としての例会を求めて、併せて会員の安否の確認も含めて。
- ・ロータリーのルールと思い参加しておりますが、週一回と言うのは非常に良いと思います。
- ・奉仕を通じて会員の交流をはかる。異業種交流。人間関係。
- ・難しい質問で答えに窮します。「決められているから」が模範解答と考えますが、楽しくなければ例会(ロータリー)にあらず、と言いますが、人的交流により人の和ができ親睦へ発展、仕事の依頼、悩み相談などの波及効果は大きい。人間は会う密度の濃さにより付き合いも深まる。
- ・奉仕の機会として知り合いを深め、事業や道徳的水準を高める為。親睦。仕事上での付き合いが、いい友になれば…
- ・自分たちのクラブも含め、ロータリーに関する情報の共有。ロータリーの課題、対応の確認のため。又、相互の交流を通じて各会員が自己の仕事、生活をより充実させていくため。
- ・出席により会員相互の親睦が深まりクラブ活動にも積極的に参加できる。又、習慣化する事により参加しやすくなる。
- ・会員相互の親睦を図り、クラブ及び会員が健康体を維持できるように。
- ・週に一度会う事によって色々な情報が得られる。それと同時に皆さんとお会い出来る事

が楽しくなって来ました。それは100%出席になってからです。

- ・自己研鑽のため。
- ・職業上の発想の交換を通じて分かち合いの精神による事業の永続性を学び、友情を深め、自己改善を図り、その結果として奉仕の心が育まれ、例会で高められた奉仕の心を持って、それぞれの家庭、職場、地域社会に帰り、奉仕活動を実践するために週一度ロータリーに集う。
- ・他の方達の事はわかりませんので「私は」で答えます。この設問に答えるのに数行では難しいです。私一個人の入手できる情報は、皆さんと同じで、インターネットやメディアと自分の職業関係ぐらいで大変限られています。そこで週一回の例会出席により、異・他業種のロータリアンから専門分野の情報が得られます。情報の量が増せば、今、どこで何が起きていて、どんな事が求められているのかの把握が広くできます。「奉仕の機会」認識の為です。
- ・会員の親睦を図る事が出来る。ロータリー情報が早く耳に入ること。他クラブのことが良くわかるから。
- ・色々な方々と週一回交流することによって「気づき」が出来る。週一回ロータリー例会に出る事によって仕事とのメリハリがつく様になった。
- ・親睦と友情の為に週一度。奉仕の心を学ぶため(自分を磨くため)。他の職業、他の経営者から学ぶため。自己改善の為。週に一度でなければメイキャップはどうなるの。
- ・直接会って情報を交換し交流することにより自らを向上させる。
- ・習慣化している。皆に暖かく迎え入れられている実感がある。業界の集まりよりも可能性を感じておもしろい。
- ・会の運営と親睦(会員間の相互理解)のため。
- ・例会参加はまずはロータリーの原点である。奉仕の源となる話し合いの場である。会員同士の親睦の場として情報交換の場として。
- ・会員卓話及び外部卓話者に依る種々な話を聞かせてもらう事や、会長挨拶の中の貴重な話を聞いたり、会員間の会話での親睦を深める事。
- ・会員との出会いにより自分自身の課題を見出すチャンスにしたい。自己教育を常に考える。
- ・7日に一度自分を見つめなおし再度理想の活動に役立たせる。先輩を鏡として自己と重ねて見る良いチャンスである。
- ・地域社会とのコミットメントを深める場。自分自身の職業倫理、道徳観を深める場と位置付けています。
- ・楽しいから。例会に出席することがロータリー活動の原点と考えていますので、例会に出席しないということは考えたこともありません。
- ・ロータリーの友人に会うために。ロータリーの友人と職業、ビジネス、地域の情報交換のために。ロータリーの例会でクラブの現状を確認するため。ロータリーの例会で卓話講師の専門分野のお話を聞いて自身の職業や人生に糧とするために私(たち)は集う。
- ・同じ目標に向かって活動する者同志の意志の疎通を確認する為ではないでしょうか。
- ・出席により会員相互の親睦が深まりクラブ活動にも積極的に参加出来る。又、習慣化する事により参加しやすくなる。

- ・このテーマを見て私はいささかとまどいを感じました。なぜならロータリークラブに入会して以来、定款第6条および細則(第5条)に規定されている例会に出席するのが義務と考え、無意識にそれに従ってきたからである。いろいろ考えて見たがどうも明確な答えが出て来ないので、手続要覧などで調べてみたがそれらのものを書いてあるはずもない。熊本グリーン RC 発行のロータリー情報集によると、例会はロータリアンの人生修養道場であり、会員の教養を高めるためのプログラムが組み込まれたりするとある。また、このほかに種々の情報を得たり、多くの友人、知り合いが得られる場でもあると考える。

幸いにポール・ハリスの「ロータリーへの道」から、第33章に「最初のロータリー・クラブ」の記述を見つけ、ポール・ハリスのロータリー・クラブの発想や効用、目的がこのテーマの趣旨に合うと考えた。その一部をあげると、「ロータリーの集会は新密度が濃く、友情に溢れていました。ためにならない無意味な制約はご法度でした。一中略一 会員たちは各々親切にし合い、友情を発揮して助け合いました。会員の利益になるときは、お互いに顧客になり、必要があれば親切な口添えもしました。こうして商売上有利な人もいましたが、反面そうでない人もいました。しかし、親睦はお互いのためになるということ全員が理解していました」ロータリーの例会は、社会的地位、宗教的信条などが異なる職業の人々が集まり、多くの知り合いを得て相互理解を深め、その結果友情が深まり親睦の輪が広がることに意味があると思う。ポール・ハリスの最初の考えは、百年後の今日においても生きているものと思う。例会の目的はこの原点に戻る事が適切と考えた。

アンケート2 「あなたは週一度の例会を職業奉仕に役立っていますか」

- ・出来ていると思います。
- ・情報の交換の場として役立てようと努力している。同時に親睦を求めていると思う。
- ・ロータリーの交友が他の職業分野の物の見方、考え方の差異を感じ、それを考える(想像する)ことによって視野が広がり、自分よがりになりがちな思いを是正することが出来る。異分野、異次元の広がりを感じ、自身の職業を顧みること、遠回りではあるが、職業奉仕に結びついているのではないかと考えています。
- ・充分とは言えませんが、職業奉仕に役立てる様に努力しています。
- ・倫理観を植え付ける意味で役立っています。
- ・職業上の手法の参考にする。
- ・時々ある。
- ・自分の持っている職業を通じお互いの情報交換をしていく。四つのテストに従業員と読んでから仕事に入る。
- ・自身の職業倫理感には役立っている。異業種の方々(一般社会)の思い(考え方、感じ方、希望等)を得る。
- ・知り合い、尊敬しあう中で共に生きる事を実践していきたい。
- ・入りて学び、出でて奉仕、という事で役立っている。
- ・地元の方々のお話を聞く事で郷土の事がわかる様になって、毎週が楽しみになっている。

名士の方々と同じ目線で会話して頂けるようになった。

- ・週一度の例会に出席することにより、会員の職業について良い事、無理な事が理解できる。会員の中で特殊職業に携わっている方の内容が理解できる。
- ・週一回の例会出席は職業奉仕の役には立ちません。なぜロータリークラブでは例会出席100%を求めているかを考える事になるでしょう。自ずと答えは、例会への継続した出席により、役立てる事が可能になるという事が明らかになります。しかし、このことは職業奉仕に限られた事でなく、五つの奉仕すべてに当てはまります。又、職業奉仕の何たるかも、ここから考えが始まる契機となるでしょう。
- ・例会に週一回出席することで色々な情報や意見を交換し合い、自己研鑽をすることで職業における倫理観を養い、高い道德水準で事業を行う事で職業奉仕に役立てている。
- ・あまり役立てはれないが、例会に出席後会社に戻り新鮮な気持ちで業務に専念するようになっているという意味では職業奉仕かな？
- ・今は役立てていないと思います。
- ・財団ボックスに小銭を入れている位。
- ・各会員のそれぞれの仕事の課題、それへの取り組みを自分の仕事に役立てている。
- ・役に立てようと思っはいるが…
- ・個人の持つ能力(または職業)をいかにクラブ内及び地域のために発揮するかを追求しているのがロータリーの精神であるが、実態としては必ずしもそのようにはなっていない。やはり団体としてどのような行動を起こすのかに主眼を置き、絶えずクラブのテーマとして取り上げる必要がある。
- ・他職業のメンバーと情報交換が出来ています。
- ・食事をしながらのロータリー仲間との情報交換、卓話の内容等会社経営や人事運営に役立つ事柄も多く、朝礼や会社ミーティングで社員の皆さんにお話をして、事業運営の円滑化に役立てている。
- ・職業奉仕は自分自身の職業意識を高めるために異業種の人々と会い、意見を聞き、自分に何ができるかを確認して大いに役立っています。
- ・各会員の社会環境を話し合い、情報を知り、さらに、職業の理念を聞かせて頂き、自分の職業に役立てています。
- ・何をやる事が職業奉仕になるのかわからないため、役立っていない。(私が入会してから職業奉仕委員会が何かやったという事がないので)
- ・自分の会社の中だけでは「井の中の蛙大海を知らず」になってしまう。週一回異業種の方々とお会いして少しでも話せば何か気付く事が有ると思います。その1つでもお互いに有用になれば良いと思っています。
- ・自分の職の充実を図り、それがクラブ、社会に貢献できるようになれば幸いです。
- ・私共クラブは、卓話は外部講師がほとんどであり、他業種、他地域の方の話を聞けるので、いろいろと勉強になります。例会は個人の勉強の場であり、情報交換の場でもあり、親睦の為でもあります。
- ・人の意見を聞き、自分のために参考にする。
- ・大いに役立てています。昨今の実業界における倫理観の欠如を思わせる不祥事が多く報道されて残念に思う。ロータリーの職業奉仕の理念を再認識すべきであろう。

- ・役立てていると思います。ただ、自分の気持ちの中ではまだまだと考えております。自分を磨き、スキルを高めていくことをこれからも心がけていきます。
- ・過去に中学校への会員企業による出前職業紹介を行った。
- ・私の事業所は、社員が10人足らずの会社ですが、例会で聞いたり見たりしたことを社に戻ってから社員に報告することがあります。
- ・特に例会を意識して考えたことも行動したことも無い。
- ・例会に於いて唱和する「四つのテスト」を毎週スタッフが交代で読み上げ全員で唱和し、「四つのテスト」の気持ちを持ち続けて仕事に取り組んでいる。
- ・四つのテストに従業員と読んでから仕事に入る。必要が出た場合は考える。仕事に入る前に従業員にロータリーで仕入れた話をして仕事に役立てる。相手に喜んでいただく事が大事である。
- ・残念ながら今までそれほど考えていませんでした。異業種の皆様のさまざまな意見等をこれから役立てたいと思います。
- ・？
- ・自分では、自分の職業に対して、誇り、納得、自信を持ってそれを『良し』と思っている、ある意味それは自身の目線であり、立場の違った目線(職業)の方からすると自分では気づく事なかった事や思いを教えていただく事もありました。いろいろな意味において他の職業の方の話や思いを聞いたりすることは、自身の職業及び職業奉仕に役立っていると感じます。
- ・雇主、従業員、同僚への誠実さ、また、この人たちや同業者、一般の人々、職業上の知己すべての公正な取り扱いの実践に努力中。
- ・私の職業分類は内科医。週一回の例会にこの一週間話題になった医学のニュース、会員・家族及び事業所従業員に対する保健衛生に役立つ印刷物をコピーし、全会員・メイクアップに来られた方に配布、卓話をしたり、例会で時間のある時はそれをわかりやすく解説します。会員に流行期の前にインフルエンザ予防接種をし、皆が健康に過ごすことが出来る様にして出席率の向上に貢献しています。
- ・他業種の会員との情報交換。
- ・この設問は、例えば「会員同士の仕事の成立」等の間違っただけの回答を引き出したいように見える。今それぞれのクラブの例会では役に立っていないと思う。
- ・例会において、修得した知識と価値を自身の職業を律するために活用し、自身の職業(職業内容)の水準と品位を高め、職場や社会で奉仕するために役立てている。
- ・10年、20年まえより役立つことが少なくなった。
- ・役立てていない。
- ・四つのテストの実践を検証する。(少しづつ)
- ・情報共有の場として役立てている。
- ・自分の仕事に関係した社会奉仕に役立てています。
- ・職業奉仕と例会を結びつけて考える事には、いささか無理がある様にも考える。「ロータリアンの職業宣言」(改訂邦訳)からも分かるように、職業奉仕はいわば個人の職業上の意識が主体であり、例会でこれを具体的に利用できるかには疑問が残る。ただ、例会において会員に対して職業奉仕を鼓吹することは可能である。

- ・質問 2, 3 合わせて記述致します。

両方の設問の意図が理解出来ない。

例会に於いて職業奉仕は役立つ事例を具体例として明示して下さい。

職業奉仕の実践とは何ぞや。

以下述べる私見に対しても併せてご回答を後日で結構ですのでお願い致します。

[私見]織田ガバナーは各クラブの活動計画書の挨拶の中で日本のロータリークラブの問題点として第一番に「職業奉仕の理念の衰退」(ロータリー綱領の軽視等)を提言しています。それと比較して、この設問の整合性(ある意味では乖離)をどのように説明されるのか、又理解したら良いのか、当惑するばかりです。職業奉仕の究極は「超我の奉仕」であり、例会はロータリアン一人一人が自己研鑽する場であり、その集積に於いて、やがては社会貢献につながり、自らの職業を通じて社会的責任を果たして行くものと確信している。このテーマを揚げ、研究会を行うのであれば、先ず各クラブの職業奉仕委員長に対して地区の職業奉仕委員会の研修セミナーの場で参加者を洗脳する程徹底して行うべきである。本日の 2, 3 のテーマではロータリー情報研究会にはなじまないと思います。

アンケート 3 「職業奉仕の実践と言う観点から、例会の運営上改善すべき点がありますか。ある場合、それを具体的にご記入下さい。」

- ・ 特段、改善の指摘はない。
- ・ 例会時に会員による自企業を PR する時間を確保して広く会員に知らしめる。自己の経営方針を述べる。
- ・ 質問と異なるかも知れませんが、クラブ役員を受けてもらいたい。
- ・ 特に改善すべき点はないと感じている。
- ・ 職業奉仕の本当の意味を知らない者が多いことが問題。
4 つのテストの「みんなに公平か」をクラブの役員を公平に振り分けることと勘違いしているものが多い。
今回のような機会を多く設定し、会員の意識改革を行うこと。
- ・ ロータリークラブは異なった職業人の集まりですから、当ロータリークラブでは例会の時に、時間のある限り交代で各自の職業奉仕について紹介したり、他の会員からいろいろアドバイスを受ける等、毎日実行していることを話し合い、楽しくやっています。
- ・ 会員同士の情報交換と言う観点からも、席の固定化を防ぐ席次の工夫。
- ・ まずは、自分の会社でロータリーを従業員に理解して頂き、地域でより以上の活動を行えるよう例会を通じて考えるべきである。
- ・ 卓話を聞き、自分なりに学ぶ。問題が出た場合は、クラブ協議会を開き全会員で解決する。
- ・ ロータリアン一人一人がどのように実践しているかを 10 分でも良いから話してもらおう。出席した例会の会長挨拶、卓話の中からひとつでも自分の「為になること」を学んで行く。「職業奉仕のお話」RI2660 地区作成を朗読する。
- ・ 通常例会の中でもっと多くの実のある提案、協議の機会を多く設けるべきであると思う。

- 特に必要と思われるときはクラブ協議会をできるだけ多く設け十分協議するべき必要がある。必要な協議なしに面倒なことは何でも理事会一任運営は無責任ではないかと思う。
- ・競争の社会で一つの職業を長い年月にわたって続けていくこと自体が職業奉仕であると思います。その間の皆様の御苦勞話などを聞く機会があれば有意義かと思います。
 - ・新入会員に対する例会の参加意欲、雰囲気作り。
 - ・数多くお客様を呼んで卓話を設ける。
 - ・卓話の充実。
 - ・特にありません。
 - ・お互いの仕事を理解するための卓話などを設けたり、その業界についての勉強会も良いのではないのでしょうか。
 - ・会員間で仕事に繋がりができるような話し合いをしてもらいたい。
 - ・最近例会において会員増強の時間をとっていますか？私は会員相互の意見交換に時間を有効に使って良いと思います。
 - ・例会運営の中で、会員各自が自身の職業についての話をし、そして奉仕の基になる為の努力をすることが職業奉仕の実践に結びつくと考えています。
 - ・改善すべきは例会運営上の問題ではなく、例会に参加するロータリアン一人一人の心構えである。例会はロータリアンにとって職業奉仕の実践と鍛錬の場であることを忘れず、お互いに品位ある行動と言動に心すべきと思う。
 - ・ありません。
 - ・委員会の活動が希薄である。(構成メンバー全体のものになっておらず、ごく一部の会員の動きだけに支えられている。) 各委員会の委員長を中心に今年度の計画から実施・反省に至る経緯をたえず委員に意識させ向上心をあおる工夫が必要。配属されている委員会の動向すら関心が薄く、ましてや他の委員会の動きなどは全く関知せず。
 - ・お互いが切磋琢磨して自己研鑽に励む貴重な場でなければならないので、会員同士が思いやりの気持ちを持って意見を交換したり、自由に発言できる場にしなければならない。
 - ・まず職業奉仕とはロータリー活動で何なのかを会員に知らせることでしょう。次に手段はその情報です。その情報を共有する為に例会に於いて職業奉仕月間に委員による職業奉仕に関する卓話や、情報収集の手段を語るのもよいでしょう。が、一歩進んで「研修委員会」の設置を考えたらいかがでしょう。また、クラブ協議会—研修委員会—職業奉仕の図式が描かれることになるでしょう。
 - ・職業奉仕月間に出来れば地区委員の方にクラブへ来て頂き、例会に職業奉仕について実例を挙げて説明して下さい。
 - ・異業種の集いであるので、会員の方々の職業紹介をもっとした方が良い。体験・経験の違った人たちのお話を聞けることは大変素晴らしい事。楽しい例会。
 - ・会員卓話を増やして下さい。相互理解の為。
 - ・自らの職業分野あるいは得意分野(趣味を含む)についてもっと積極的に披露していくべきと考えます。
 - ・ロータリーが倫理的経営企業の集まり(職業奉仕の団体でもある)である事の広報並びにその考え方広めるプログラム作り。閉鎖的でない事…自己満足につながる。
 - ・会員増強における観点から新会員が楽しくなるように例会をしようと努力し始めた。現

在例会開始時間・卓話など内容も変えて実行しています。

- ・卓話を重点的に持っていく。例会時の席が固定されていないか。
- ・会員それぞれの職業上の自慢話を卓話に生かしてほしい。
- ・会員卓話の充実。会長挨拶の充実。
- ・地域社会への還元活動、他会員の職業人としての考え方について卓話をお聞きする機会を増やして欲しいと思います。
- ・職業奉仕は個人の問題。例会はクラブの問題。個々の職業代表の話を聞き、何かを感じてもらうことを手助けするのがクラブ運営であり、例会プログラムであると思います。会員の声を吸い上げたり、会員のニーズをつかむことは大事ですが当クラブの例会運営上の改善点としては特にありません。
- ・当クラブとして改善した点。旧態ですと、PM12:30 に点鐘後食事を 30 分、その後に会長挨拶・幹事報告と言う形でしたが、現在 9 月の例会からは、12:30 点鐘すぐに会長挨拶・幹事報告、その後卓話を 30 分するように変更しました。

アンケート 4 「本日の卓話をお聞きになった感想」

- ・職業奉仕にしても、ロータリー情報にしても、例会に出席する会員であればロータリーを通じて自身を磨く事のできる人であると思います。問題は、例会に出席することの優位順位が低い会員にどう接して「寂しさ」を解消してさし上げられるかがクラブとしての会員増強の課題であると思いました。
- ・分かり易いお話でたいへんに勉強になりました。今後のロータリー活動の参考とさせていただきます。
- ・職業奉仕の考え方について整理できたと思います。
- ・卓話者の話にすべての答えが出されていると考えております。
- ・今回の研修課題の答えの 95%は話されたと思う。
- ・色々貴重な話が盛り込まれておりましたが、今少し端的に集約されたら尚良いと思われた。
- ・各会員のロータリー感と言うものが良くわかった。各自の自己を高める為に集い、他の会員とのコミュニケーションをはかる事が楽しみになっている。
- ・例会＝自己研鑽の場、である事を再確認しました。
- ・職業奉仕が中心の卓話で新人には難しいのでは。
各テーブルの発表を聞いて…建前、月並みの話。
- ・「ロータリーの集い」が原点に帰って考えさせられました。何故ロータリーに入ったか、ロータリーに入ってから自分にとって何が良かったか、これから自分がどう活動し、自己の成長、会社の成長、社会への還元等、ロータリアンにふさわしい人間になれるか、自己啓発に努めていきたいと思います。
- ・本日の卓話を聞いて大変良かったと思います。一年に一度の情報研究会ですので出来れば会員全員が出席してほしいと思います。
- ・織田ガバナー→懸念→会員減少→クラブ活動力低下。
職業奉仕研修から(基礎になる)クラブ活性化に。

例会出席→自己研鑽→クラブの力→(ここから私) 情報(多様な)→奉仕の機会→最も良く奉仕する者最も良く報われる…

- ・ロータリーの存続の危機を乗り切る為に人と人との繋がりを大切にし、様々な人の話を聞き自己研鑽に励むことで職業奉仕に繋げることが重要であると感じました。
- ・今以上に家業に感謝すると共に、家業を大事にしなければとの思いを強くした。
- ・先輩とのお話をお聞きして感銘を受けました。
- ・各会員の卓話は楽しく拝聴している。プログラム担当の各会員への根回しによるところが大きく、それを怠ると悲惨な例会になる。
- ・基本について分かり易く聞かせてもらいました。
- ・職業奉仕はロータリーに集まって学ぶべきものとは思いません。毎日の会社運営の中で経営者の判断の実践が職業奉仕と考えます。週に一回の例会で自らの実践についてロータリーの友と会い、話し合い、チェックすることにしております。週一回の例会への出席は楽しみです。
- ・職業奉仕の事だけでロータリー情報研究会とは違う感じを受けました。できればもう少しガバナー補佐が会員に明確に伝えるべきだと思います。
- ・ロータリーの原点は職業奉仕であり、本日の卓話を聞いて再確認しました。
- ・職業奉仕の奥深さ・重要性がわかり、非常に勉強になりました。
- ・余計に解らなくなった。
- ・ロータリーの綱領の大切さ、職業奉仕の意義が理解できた。
- ・今後のロータリー活動に大いに役立つものと思います。
- ・他者との交わりで多くの情報を入手し、自己研鑽を行う。例会への一人一人の積極的な参加が大切であるとの話に同意する。
- ・今後のロータリー生活を考え直すのに参考になりました。
- ・大変難しい問題でした。
- ・先ず出席！！非常に参考になりました。共鳴すること多くありました。
- ・今回は必要なし。
- ・特になし。
- ・専門職の会員増強が大切。
- ・相手の立場に立って行動する。一週間に一度例会時に反省チェックする。会員同志切磋琢磨し、尊敬し合い、職業に対する意見交換する。
- ・自分の職業にいかに関心を取り組むべきか、個人の良心にかかってくるという示唆を得た。

【土屋亮平 地区職業奉仕委員長 総評】

国際ロータリー第2790地区第9分区ロータリー情報研究会の閉会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本年度のロータリー情報研究会は、石井勝雄ガバナー補佐様のご指導の下、浅海輝行・印西ロータリークラブ会長様を始めとする第9分区の皆様のご協力を戴き、情報研究会がこのように立派に終えることができましたことに対し、衷心より感謝申し上げます。

さて、本年度の織田ガバナーは、5大奉仕部門の内、職業奉仕が最も理論的であり、倫理的であると結論づけられました。そのような観点から、今後益々増えることが予想されるであろうRIからの提示、並びに案件につきまして、各クラブがそれらについて、独自に、その是是非非の判断を下す必要性が想定されます。それ等に対応すべく、各クラブの職業奉仕委員会の中に『クラブ研修員会』を設置することを要望され、常日頃から研鑽を積んで頂きたいと、断つての要請でございます。

特に織田ガバナーは、今年度、各分区毎に開催されますロータリー情報研究会を地区の職業奉仕委員会が担当するように指示され、テーマも「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」と示され、「出席なくしてロータリーなし」と言いますが、出席の重要性を再確認して、真のロータリーライフを構築して頂きたいとの思いと拝察致します。

“出席と申しますと、これはクラブ奉仕の分野ではないのか？”、“今更そんな当たり前のことを議論するのか？”等のご意見も聞きますが、ロータリークラブの定例会は、些か異にします。例会と言っても一連のセレモニー、食事、卓話、それ以外にロータリーの例会にはもっと深遠なものが存在しなければなりません。それを本日掘み採って頂いたと思います。それこそが、職業奉仕を理解する上での大前提であるからであります。

第9分区のロータリアンの皆様、今日の研修会は皆様にとってのロータリー情報研究会でありました。

敢えて言わせて頂ければ、地区職業奉仕委員会の任務は、職業奉仕への道案内に過ぎません。

どうぞ今日された活発なるご討議をクラブに持ち帰って頂き、楽しく、実り多いクラブ例会になりますことを期待致します。

混迷する社会で生き残る道は、唯一、職業奉仕の実践『大道無難』に尽きます。

2010-11-18
地区職業奉仕委員長
土屋 亮平

出席者名簿

【地区職業奉仕委員会】(敬称略)

氏名	役	職
土屋亮平	地区職業奉仕委員長	松戸RC
海寶勘一	地区クラブ研修委員長	千葉西RC
富川名光	地区職業奉仕研修委員長	成田空港南RC
堀山内正俊	地区クラブ研修委員(卓話者)	館山RC
	地区クラブ研修委員	木更津RC
	地区クラブ研修委員	市川東RC

【成田ロータリークラブ】

役職	氏名	リーダー	テーブル
会長 職業奉仕委員	諸岡靖彦	○	A
	佐瀬和年		A
	矢島紀昭		C
	丸山進		D
	小泉英夫		E
	浅野洋介		F
	小宮山四郎		G
	松田泰長		H
	蜂須賀昌彦		I
	橘昌孝		J
	設楽正行	K	
	田辺勇治	L	
	神崎誠	A	
	平野省二	B	
	近藤博貴	B	
	柴田實樹	D	
	平山秀樹	E	
	日暮俊久	F	
	石橋菊太郎	G	
山田真幸	H		
大沢浩一	I		
角田幸弘	J		
鎌形義雄	K		
事務局	黒須優子		—

【八街ロータリークラブ】

役職	氏名	リーダー	テーブル
会長 幹事 職業奉仕委員	槍 木 勝 典	○ ○	A
	鎌 形 芳 法		H
	大 野 眞 里		J
	青 柳 十 兵 衛		D
	宮 川 英 昭		E
	高 橋 宏 一		F
	山 本 和 一		H
	亦 平 力 一		G
	糸 久 仁 一		H
	森 澄 忠 男		I
	関 由 美 子		K
	萬 来 謙 一		L
	伊 藤 正 吉		A
	福 田 守 一		B
	生 形 健 一		C
木 村 利 晴	D		
原 弘 行 子	E		
事務局	松 原 恵 子	-	

【富里ロータリークラブ】

役職	氏名	リーダー	テーブル
会長 幹事 職業奉仕委員 ロータリー情報委員	三 橋 秀 夫	○ ○	F
	佐 々 木 敬 悦		G
	綿 引 和 法		L
	藤 井 十 郎		K
	石 澤 幹 郎		J
	伊 藤 良 徳		I
	岩 井 和 平		L
	岡 野 耕 平		A
	小 倉 光 雄		B
	寒 郡 茂 樹		C
	寒 郡 政 雄		D
	関 谷 真 宏		E
	土 屋 征 四 郎		F
	橋 本 洋 洋		G
	早 川 好 一		H
	藤 田 一 欽		I
	宮 川 一 男		J
	矢 部 和 彦		K
	山 倉 健 光		L
伊 藤 光 彦	J		

【成田コスモポリタンロータリークラブ】

役職	氏名	リーダー	テーブル
会長	滝澤政樹		F
幹事	神谷修一		G
ロータリー情報委員長	林康博	○	F
ロータリー情報副委員長	宮田明俊	○	I
ロータリー情報委員	今仲典雄		J
	青木貞雄		K
	福田稔		L
	長谷川吉昭		A
	長谷川浩史		B
	百武尚樹		C
	石井島國久		D
	飯岩澤弘		E
	加瀬間明彦		F
	成尾正行		G
	加野泰義		H
	笠井岡精一		I
	片岡孝治		J
	貝塚清		K
	加瀬村邦雄		L
	上村昭彦		A
	小林立章		B
	栗山秀太良		C
	三水木正視		D
	水村口康司		E
	中嶋義靖		—
	並木木幸		E
	大田不二		G
	菅波幹克		—
	沢田中		H
	田岡英		I
	吉藤良		—
	石毛政		J
			K
			L
事務局			—

【白井ロータリークラブ】

役職	氏名	リーダー	テーブル
会長 幹事	平 川 進		B
	畠 山 泰 哲	○	C
	伊 藤 仁		C
	伊 藤 喜 典		D
	鈴 木 孝 孝	○	G
事務局	森 山 ひ と み		—

【印西ロータリークラブ】

役職	氏名	リーダー	テーブル
会長 幹事 ガバナー補佐 職業奉仕委員 ロータリー情報委員	浅 海 輝 行		A
	三 國 恭 輔		B
	石 井 勝 雄		C
	伊 藤 博 信	○	D
	森 田 靖 彦	○	E
	伊 藤 英 寛		F
	伊 藤 寛 守		G
	今 井 守 夫		H
	角 来 幹 夫		I
	児 嶋 正 治		J
	斉 藤 雅		K
	中 島 茂		L
	橋 本 和 治		A
	馬 場 明 四 郎		B
	平 川 昇 平		C
堀 江 恭 一		D	
武 藤 弘 子		H	
事務局	齋 木 操 子		—

